

## インターンシップ 成果報告書

### 第1章 インターンシップ概要

私は、7月25日から30日にかけてカンボジア王国にて選挙監視活動を行った。具体的にはカンボジアにおける選挙監視 NGO、COMFREL(The Committee for Free and Fair Elections in Cambodia)のメンバーとして選挙監視を行った。手続きとしては、日本の平和構築 NGO である InterBand<sup>1</sup>を通じ、COMFREL へ国内選挙監視員として登録を行い、監視に至った。形式としては InterBand へのインターンシップという形で、日本国内にて InterBand 職員による研修を受け、6日間のミッションに望んだ。具体的な活動スケジュールは以下のとおりである。

Jun 25 <sup>th</sup>	現地顔合わせ、情報共有。COMFREL による Briefing(予定)
Jun 26 <sup>th</sup>	与党、野党による最後の選挙キャンペーンの視察。聞き取り調査。
Jun 27 <sup>th</sup>	各自選挙地区にて政党事務所及び選挙管理委員会への聞き取り調査。
Jun 28 <sup>th</sup>	選挙当日、各選挙区域にて、選挙監視。PM9 時頃より開票速報。
Jun 29 <sup>th</sup>	OXFAM Office にてブリーフィング。選挙監視を踏まえ、COMFREL の記者会見出席。
Jun 30 <sup>th</sup>	日本大使館報告。

今回の選挙では、最大与党である CNRP(Cambodian National Rescue Party)の党首であるサム・ランシーが7月12日のシハモニ国王による恩赦によって急遽カンボジアに19日に帰国(フランスに亡命)することとなり、選挙ムードが一変した。今までの選挙の雰囲気とは違い、変化(Change)を求める人の声を公共の場で聞くこととなった。NGO は、サム・ランシーの帰国によって治安が悪化することを懸念し、結果として選挙監視に関するスケジュールが大幅に変更になった。

### 第2章 選挙監視とは

国際選挙監視には2つの目的がある。1つは当該国における選挙を中立的な立場から監視することにより、選挙過程における不正に対する抑止効果を発揮し、自由かつ構成な選挙の実現のために間接的に支援することである。もう1つは、長期的に当該国で選挙動向を確認することによって選挙の欠陥を浮き彫りにすることである。選挙監視員には、長期監視員と短期監視員が存在する。長期監視員は、選挙の公示から当該国に入国し、現地の情報収集に当たる監視員のことである。一方で短期監視員は、主に投票日とその前後、選挙活動が激化しているところで情報収集や監視を行う監視員のことである。短期監視員としては、大きく分けて4つの仕事がある。1つは、投票前の監視である。投票所の選挙日当日の監視の事前段階として、選挙関連行幸の情報収集(街宣活動も含む)、そして選挙運動の監視や選挙管理委員や政党への聞き取り調査、他の国の監視員との調整及び情報交換、国内監視員との情報交換、監視活動地域の選定及び関しルートの方定、投票上の設置状況の検分が選挙前の監視となる。選挙日当日には、投票時の監視と開票時の監視がある。投票時の監視は、早朝に出向き、投票所の会場の前に選挙関連物資の有無の確認(投票箱、選挙用紙、選挙人名簿など)、投票箱の中身の確認(空であること)、定められた手順で投票準備が進められているか、確認(選挙用紙のはんこの開封など)を行う。投票所が開場

<sup>1</sup> Interband とは日本の平和構築 NGO で、争いの解決だけでなく、国際社会への早期警報を発し、紛争を予防することを活動の目的としている団体である。InterBand は民主化 NGO である、ANFREL(Asian Network for Free Election)と1998年より連携しており、過去多くの国で選挙監視を行っている。過去インターバンドとして活動したメンバーとしては、山田満(早稲田大学社会学部教授)、阪口直人(衆議院議員)、上杉勇司(早稲田大学准教授)などがある。

されると、投票好意の監視を行う。投票所周辺の治安や、異議申立てや不正行為の対応の監視、投票者への聞き取り調査、投票終了に伴う手続きの実施状態について聞き取りを行う。この時、不正や問題が住民から上がってくる場合が多い。次に、開票作業である。開票にあたっては、選挙管理委員が不正を行わないよう、定められた手順で開票準備が行われているか、投票箱の封印の確認。集計作業の監視、開票所付近の治安状態、そして集計作業終了にともなって行う諸手続きが実施されているか確認する。開票後は、各監視員の監視結果の集計や、情報交換、結果の本部への送信(今回はSMSを使用した)を実施する。以上の手順が選挙監視自体のプロセスである。

### 第3章 得られた知見

実際に、選挙監視活動を行った結果、3点の知見を得ることが出来た。1点目は、選挙監視の視点である。平和構築を語る際、マクロな視点で語られることが多い。選挙の制度がどうなっているのか、投票所の数、有権者の数などである。しかしながら、選挙監視を実際に行ってみると、選挙で発生する問題はマクロな対立だけでないことがわかる。選挙区ごとに対立の性質が違い、ベトナム人移民のコミュニティやイスラム教徒が多いコミュニティと大都市では暴力の火種が違う。また、選挙に際して政党は様々なコミュニティで選挙活動を行うが、それも限定的で大都市と農村部では、選挙に対するスタンスが違うのも印象的であった。2点目が、途上国のキャパシティの問題である。選挙に際して、制度が全うであってもそれを実施することが出来なければ、結果として不正を招く結果になるということである。選挙監視中に発生した事案としては、投票された票数と入り口でのカウント数の違いが発生した。結果として不正に数合わせのためにある政党に1票カウントしていた。このような不正は、意図せざるキャパシティ不足から発生しているものである。国のキャパシティに合わせてローカライズされた制度を構築する、という重要性を学んだ。最後に、暴力のトリガーについてである。暴力が発生してしまう事案は日本人としては些細な出来事がきっかけになる、ということである。選挙当日には、今まで20年間(1993年~2013年)続いた与党ではなく野党が勝つ選挙区が続出し、その歓喜がパトカーの破壊などの暴力につながった。日本では、維新の会が勝つ、ということが暴力につながらない。しかしカンボジアでは暴力への沸点が非常に低い用と感じた。後に平和構築に携わりたいと考えている、自分には非常に学びの多い経験であった。

### 第4章 参考文献

<資料>

2012年度カンボジア連続セミナー第2回“選挙からみるカンボジアのいま”カンボジア市民フォーラム・上智大学

<Web Page>

IMF – World Economic Outlook Database, <http://www.imf.org/external/ns/cs.aspx?id=28>, 2013年11月28日参照

<新聞>

The Phnom Penh Post, 2013/7/26, Final push to finish line

The Phnom Penh Post, 2013/7/26, Parties up final election push

The Cambodia Daily, 2013/7/27-28, Thousands Rally on Final Day,

The Phnom Penh Post, 2013/7/29, Big opposition gains

The Phnom Penh Post, 2013/7/29, Anger Hope on nations streets

The Phnom Penh Post, 2013/7/30, Election results rejected